

コレクション紹介

國領康弘 爬虫類・両生類コレクション

森 繁雄



収蔵室内 液浸標本

國領康弘氏は1956年8月生まれ。日本大学三島高等学校時代にハコネサンショウウオの研究で優秀な賞を受賞し、その後の爬虫類・両生類研究の原点となりました。日本大学卒業後は京都大学理学部動物学教室の研究生となり、1979年に「トノサマガエル・ダルマガエルにみられる側頭部暗色斑紋の変異について」という表題の論文を爬虫両棲類学雑誌に発表しました。その後、地元の水産加工会社に勤務する傍ら、休日に県下の爬虫類・両生類の調査を行いました。また、静岡県自然環境保護調査委員会爬虫類・両生類部会の部長として静岡県レッドデータブックの執筆・取りまとめにあたりました。静岡県レッドデータブックは2004年と2019年に刊行され現在3回目の改訂に向けて調査が進められていますが、完成を待たず2024年4月に逝去されました。國領氏の功績は静岡空港・三遠南信自動車道・伊豆縦貫自動車道等、県下各地の環境影響評価に携わり生息地の改変に伴う爬虫類・両生類への影響について評価し保全策を提言したことです。氏の提言により環境が保全され爬虫類・両生類の生息地が守られました。また、アカイシサンショウウオの新種記載に多大な貢献をしました。自然史しずおか第11号(2005年12月発行)の“静岡県の両生類(1)”で氏は次のように記しています。「アカイシサンショウウオは2004年に新種記載されました。最初の1個体が京都大学の研究室に持ち込まれて以降、記載までに28年を費やしました(抜粋)」。氏が長期にわたり採集した個体により新種であることが判明しまし

國領康弘 爬虫類・両生類コレクション一覧

綱	目	科	種数	標本数	
有尾		サンショウウオ	8	366	
		イモリ	1	144	
両生	無尾	ビバ	1	8	
		ヒキガエル	1	10	
		アマガエル	1	58	
		アカガエル	11	4,107	
		ヌマガエル	1	175	
		アオガエル	3	233	
爬虫	カメ	イシガメ	1	5	
		スッポン	1	2	
	有鱗	ヤモリ	1	2	
		トカゲ	1	1	
		カナヘビ	1	13	
		タカチホヘビ	1	4	
		ナミヘビ	5	9	
		クサリヘビ	1	4	
数	2	4	16	39	5,141
				種不明	295
				合計	5,436

た。氏の名前は学名中の命名者名に記されています。

國領コレクションは表のように2綱4目16科39種5,141点、種不明個体295点を加えた総数は5,436点です。採集地は静岡県が最も多く滋賀県・岡山県が続きます。その他、北海道・栃木県・群馬県・東京都・千葉県・神奈川県等全国各地に及びます。表中で最多のアカガエル科4,107点の中でナゴヤダルマガエルが1,913点、トノサマガエルが1,822点、合計3,735点でアカガエル科の90.9%、総数の68.7%を占めます。主な採集地は滋賀県・岡山県で、京都大学での両種の変異を調べる研究資料として採集されたものです。ふじのくに地球環境史ミュージアム主任研究員の岡宮久規氏は「これらトノサマガエル種群標本は絶滅産地を含み過去の分布を示す貴重な資料であり、正確な種同定を可能とする一次資料として重要である。」と評価しています。